**2008 年 1 月 7 日改訂（新様式第４版）
*2005 年 10 月 5 日改訂

医療機器承認番号　15600BZZ01333

機械器具　51　医療用嘴管及び体液誘導管
管理　輸液ポンプ用ストップコック（JMDN コード：35375022）
（汎用血液流路用ストップコック（JMDN コード：35375012））
（輸血・カテーテル用ストップコック（JMDN コード：35375042））

テルフュージョン® 三方活栓

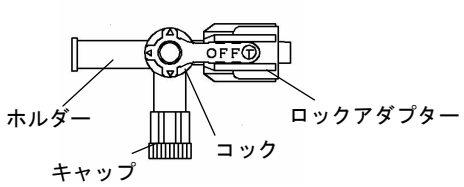
（ＰＰ）

再使用禁止

【禁忌・禁止】
・再使用禁止

【形状・構造及び原理等】

＜構造図（代表図）＞



【使用目的、効能又は効果】

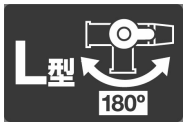
輸液セット等に取り付けて薬液の混注を行うための器具である。

【操作方法又は使用方法等】

1. 汚染に十分注意した上で包装内から取り出し、輸液セット等に確実に接続する。
2. コック上の「ＯＦＦ」の位置が閉塞した流路となる。使用目的に合わせコック位置を設定する。なおコック位置を切り替えることにより、流路も切り替わる。

＜使用方法に関連する使用上の注意＞

・あらかじめ接合部に緩みがないことを確認してから使用すること。また、使用中は定期的に緩み、外れがないことを確認すること。
・本品が身体の下等に挟まれないように注意すること。［チューブの折れ、閉塞、部品の破損等が生じる可能性がある。］
・薬液を混注する場合は、空気の混入に注意すること。
*・「テルフュージョン三方活栓混注キャップ」等を装着し、針を用いて混注する場合は、針先がコック部に接触しないようにすること。［コックが破損して、薬液が漏れる可能性がある。］
・Ｌ型タイプを使用する場合、コックを１８０°以上回転させないこと。［コックが浮き上がり、薬液が漏れる可能性がある。］



・輸液を一時的に中断する等、本品のメスコネクターから輸液セット、延長チューブ等を取り外す際は、「テルフュージョン三方活栓キャップ」、「テルフュージョン三方活栓混注キャップ」又は「シュアプラグ」を接続すること。［メス側が開放状態となり、薬液漏れや空気混入、汚染の可能性がある。］
・混注を行う場合は、混注する薬液の性質を考慮し、必要な場合は混注前後に生理食塩液等でフラッシングを行う等、適切な処置を講ずること。［本品は輸液剤の流路から横に分岐した構造となっているため、薬液の混注を行った場合、薬液の一部が直ちに流れずに本品内部に残る可能性がある。］
・コネクターを使用する場合は以下の事項を順守すること。
　1）嵌合する場合は、過度な締め付けをしないこと。［コネクターが外れなくなる又は、コネクターが破損する可能性がある。］
　2）テーパー部分に薬液を付着させないこと。［嵌合部の緩み等が生じる可能性がある。］
・本品を極端な低温環境下(冷蔵庫内と同等以下の温度)で使用する場合は、取扱いに注意すること。［本品のホルダーはポリプロピレンを使用しており、低温下では耐衝撃強度が低下し、破損する可能性がある。］

*【使用上の注意】

＜重要な基本的注意＞

*・併用する医薬品及び医療機器の添付文書を確認後、使用すること。
・使用中は本品の破損、接合部の緩み及び薬液漏れ等について、定期的に確認すること。
・接液部を汚染させないこと。
・コックに対し、引き抜く方向に過度な負荷を加えないこと。［コックが外れ、液漏れが発生する可能性がある。］
・インジェクター等を用いた造影剤等の高圧注入は行わないこと。［液漏れ又は破損する可能性がある。］
・ロックコネクターとポリ塩化ビニル製のメスコネクターを接続する場合は注意すること。［外れなくなる可能性がある。］
・包装が破損、汚損している場合や製品に破損等の異常が認められる場合は使用しないこと。
・包装を開封したらすぐに使用し、使用後は感染防止に留意し安全な方法で処分すること。

【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

＜貯蔵・保管方法＞

・水ぬれに注意し、直射日光及び高温多湿を避けて保管すること。

＜有効期間・使用の期限＞

・使用期限は外箱に記載（自己認証による）

【包装】

・５０セット／箱

*【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】

*製造販売業者：テルモ株式会社
住　　所：東京都渋谷区幡ヶ谷２丁目４４番１号
電 話 番 号：0120-128195

*製 造 業 者：テルモ株式会社

、TERUMO、テルフュージョン、シュアプラグはテルモ（株）の登録商標です。